

支え合いマップ・インストラクター養成講座

<開催要領>

1. 講座の目的

本講座は、支え合いマップを、住民とともに作成したり、作成技術を住民や関係者に指導できる力量を備えた「支え合いマップ・インストラクター」を養成するための講座である。

地域福祉を推進するために欠かせない「地域の実態把握の手法」として、住民流福祉総合研究所が20年前に開発して以来、支え合いマップ作りは全国に広く普及しつつある。その間もマップ作りの技術をさらに進化させてきたものの、これを習得できる人材がなかなか育っていないのが現状だ。そのためマップ作りが正しく理解されないままに広がっているだけでなく、マップ作りの普及そのものにも支障をきたしている。

そこで、地域福祉を主導的に推進する役を担った社会福祉協議会や地域包括支援センター等のスタッフを対象としたマップ・インストラクター養成講座を開催することとする。

支え合いマップ作りは、取り組めば取り組むほど奥が深く、しかもなかなか難しい。かなり高度な技術を要するために、この講座で数回受講したからといって、すぐさまマップ作りの指導ができるようになるものではない。受講生は、この講座をきっかけとして、その後も現場でマップ作りの実践を重ねていかねばならない。本講座終了後、翌年度から、フォローアップ講座を開催することも考慮に入れておく必要がある。

2. 講座の開催主体

本講座は、都道府県段階の地域福祉推進組織、例えば県の社会福祉協議会が主催するのが妥当と言えるが、実際には市町村社会福祉協議会も社協職員や、地域包括支援センター、NPO等のスタッフ、民生委員などを対象に開催している。いずれは、もっと広く自治会や民生委員連盟など、これに取り組む機関・組織が広がっていくものと考えられる。

ただ、地域のさまざまな組織が無計画に講座を開くのではなく、それぞれの地域の福祉推進体制をどう構築していくのかを踏まえた上で、どこがこの講座を主導するのがふさわしいかを考えていく必要がある。本来ならば、マップ作りを地域福祉推進のどの部分でどのように活用していくのかも、あらかじめ考えておくべきである。

3. 講座の協力機関

まず、支え合いマップづくりを開発し、インストラクター養成研修の実施を呼びかけている住民流福祉総合研究所が、プログラムの企画から教材の開発、講師役まで、すべての面で協力する。

また、マップづくりの習得には、実際にマップを作ってみる必要がある。マップづくりの実習には、複数の集落の協力が得られなければならない。その集落を発掘するとともに、実習当日、会場まで赴いてくれる住民を数名確保するまでをしてくれる福祉機関を探さねばならない。

4.講座の対象者と定員

この講座を受講する資格のあるものと言えば、行政職員、社会福祉協議会や地域包括支援センターのスタッフ、民生委員、NPO、自治会役員、介護保険事業所、介護支援専門員関連の組織など、支え合いマップ作りを業務や活動に生かすべき分野はすべて受講可能とみるべきである。

ただ、マップ作りの技術はかなり高度で、しかも粘り強い実践を重ねなければなかなか習得しにくいということを念頭に入れて、受講者の人選を考えるべきである。

もう一つ、定員の問題がある。ただ講義をするだけなら何名でもかまわないが、マップ作りの聴取をする実習には、協力してくれる集落を確保しなければならない。5つのグループなら5つの集落の協力を得なければならない。4つか5つのグループが限界と思われる。一つのグループを5人か6人とすれば、20～30名あたりが妥当な定員と言える。

5.講座の開催場所

講座の内容の所でも触れたが、この講座の場合、開催場所を考慮しなければならない。受講者にマップ作りをさせるには、これに協力してくれる集落を確保しなければならないからだ。マップの実習に限ってでも、協力してくれる集落の近くに会場を設定しなければならない。

講師のマップ作り実演でも、特定集落の協力が必要なので、ここでも協力してくれる集落の近くで会場を設定するか、会場の近くから協力してくれる集落を探るか、いずれかを選択しなければならない。

6.講座の日程

標準的には、1回5時間（午前と午後。丸1日）を5回開催するとした場合、これを3つに分け、まず1，2回目を、それから1週間ほどおいて3，4回目を実施。さらにここで宿題実習の期間を1，2カ月ほど空けて、最後の締めくくりの5回目を開くのが順当と言える。例えば、

●第1回目●5月8日 午前10時～午後4時（昼食休憩1時間。以下同様）

●第2回目●5月9日 午前10時～午後4時

<第1回目と第2回目を2日でやってしまう>

1週間ほど間をあけて

●第3回目●5月15日 午前10時～午後4時

●第4回目●5月16日 午前10時～午後4時

<第3回目と第4回目を2日でやってしまう>

その後、宿題を実行できるだけの時間を取った後で、

●第5回目●7月16日 午前10時～午後4時

7.開催の経費

講座開催にかかる経費で考えられるのは①講師派遣依頼のための経費、②協力機関との交渉費および協力住民への謝礼、③消耗品費（教材費および各種コピー代、筆記用具等）、④その他（受講生のお茶代等）。マニュアルやレジメ、パワーポイント等の教材開発・作成は講師が独自に作成するために経費は不要。主催者にデータで提供される。受講者から参加費を徴収するとすれば、事情は変わってくる。

8.修了証の交付

講座を必要時間数受講した者に修了証を交付する。「必要時間数」の目安や、その他の条件を付けるかは、主催者が独自に判断する。

9.フォローアップ研修

たった5日間、受講したからすぐさまインストラクターとしての力量が発揮できるわけではない。その後も各自でマップづくりを積み重ね、その指導を受けるようにしなければならない。この自学自習を支援するために、フォローアップ研修を実施することが好ましい。内容は、講義というよりは、各自のマップづくり実践を踏まえた、事例検討会のようなものになる。

10.講座の内容

インストラクター講座の内容については、本要領の末尾に示してあるとおりである。1回5時間(午前と午後)、それを5回続けるとしても、これだけの時間で習得できることは限られている。しかもマップ作りは、実際に何度も実践してみなければなかなか習得できない。限られた時間の中で、模擬実践の時間を可能な限り取ってあるが、あとは講座終了後に、各自マップ作りの実践を重ね、そのたびに講師の批評をもらうことではじめて習得への道が開けてくる。

[講座のプログラム] (案)

全5回の講座(各回・午前と午後)の内容と当日の進行、主催者の用意する物の順に述べていくことにする。

●第1回目● □月□日 午前10時～午後4時

支え合いマップづくりのための基礎知識<講義>

マップづくりの技術を学ぶ以前に、マップづくりが効果的に実践できるために、事前に知っておくべき事柄を総体的に理解する。その後、マップ作りで最も重要な聴取の技術を学習する。

- ①支え合いマップ作りの目的と概要(パワーポイント使用。受講者には資料<支え合いマップづくり入門>を配布)
- ②住民流福祉の理解(パワーポイント「ご近所パワーで助け合い起こし」使用)

[当日の進行]

- ①まず受講者の自己紹介。
- ②午前、午後ともに講義のみ。
- ③机は使わず、受講者は各自自分の椅子を持って講師の前に並ぶ。間隔を開けず、前にギッシリ詰める。講師と受講者の間もあまり空けない。これで質疑をしながら進行していく。中央部にプロジェクターを配置。その周りを受講者が囲む形になる。20名ならば2列か3列で十分。

[主催者の用意するもの]

- ①プロジェクター、パソコン、スクリーン。
- ②配布用資料(①「支え合いマップづくり入門」②「人間地図」(いずれも本研究所がデータで送付)。

●第2回目● □月□日 午前10時～午後4時

聴取と取り組み課題の抽出<演習>

第1日目に引き続いて、マップ作りの基礎知識を学ぶ。第2日目は、マップ作りの結果から取り組み課題を抽出する技法を学ぶ。いずれも受講者によるグループ作業。

- ①演習課題<3>マップ作りを終えた後、どのように取り組み課題を抽出するか。(本研究所作成の「演習課題<3>」を使用)
- ②インストラクターが体得しておかねばならない聴取の心得を講義

[午前の進行]

午前は演習課題<3>を使つての学習。

マップ作りでどのように取り組み課題を抽出するかを学ぶ。

- ①初めからグループ分け（1グループ5名程度）して、グループ別に机を用意。
- ②本研究所提供の演習課題の資料を1人ひとりに配布。また各グループに1枚、課題用のマップ（A1大）を用意。
- ③グループ別に司会進行役と巨大マップに記入する役を決める。
- ④講師の指示に従つて各自が自分のマップに記入していくとともに、誰かがA1大の巨大マップに太マジックで記入していく。
- ⑤そのあとに講師の指示で、[取り組み課題]をみんなで考え、各自が所定の用紙に記入するとともに、各グループに配布された模造紙に、概要を記入する。
- ⑥各グループがまとめた模造紙を会場の前面に並べて貼る。
- ⑦全員が椅子だけ持って、講師の前に座る。
- ⑧全体討議。

[主催者の用意するもの]

- ①資料。演習課題<3>（本研究所からデータを送付）
- ②演習課題<3>をA3大に拡大したものをグループの数だけ。
- ③模造紙をグループの数だけ（午後を使用）。
- ④太マジック（数色）を各グループに、ひとそろいずつ（午後を使用）。
- ⑤パワーポイントのための器具一式（データは本研究所が提供）。

[午前の進行]

午後は講義。聴取と取り組み課題抽出の手法。使用資料は「インストラクター用支え合いマップの最新技術」<聴取と取り組み課題の抽出編>（本研究所からデータを送付）。

●第3回目● □月□日 午前10時～午後4時

支え合いマップづくりの実演<演習>

マップづくりは実際にどのようにやるものなのか、特に住民に対してどのように聴取するのかを、講師が実演。受講者はマップ作りの実演から出てきた取り組み課題を整理する。

- ①午前中いっぱいを使って、講師が住民に直接聴取する。

予め、聴取に協力してくれる特定の集落（50世帯程度の規模）を探しておく。また講座当日に会場まで来て、講師の聴取に応じてくれる住民（その集落に住んでいる人。集落の人々の関わ

り合いの情報に詳しい人) を5名ほど確保。

②午後は、受講者がグループに分かれて、講師の聴取による結果を分析し、取り組み課題を抽出する。その結果を模造紙にまとめて発表する。その後に全体討議。

③聴取をする場合の留意点について講義。

[当日の進行]

①予めお願いしていた集落の住民に会場に来ていただく。

②受講者はグループに分かれて、聴取の様様を見学し、その中で午後の作業である取り組み課題を各自で抽出しておく。

③午後にグループ作業。司会進行役と書記を決めて、みんなで議論しながら取り組み課題をまとめ、模造紙に記入する。

④まとめた模造紙を会場の前面に貼り出す。

⑤グループごとに模造紙の内容を説明。

[主催者の用意するもの]

①当日聴取に協力してくれる集落の巨大住宅地図。A0判がいい。住民の名前の入ったもの。

②聴取に使う太いマジック（インクがよくでるよう予め点検しておく）。

③地図が貼れるボード。

④模造紙。グループの数だけ必要。

●第4回目● □月□日 午前10時～午後4時

受講者が実際にマップをつくってみる

ここで初めて受講生自らマップ作りに取り掛かる。まずは数名のグループで。

①あらかじめグループの数だけの聴取ができるよう、協力してくれる集落を探しておく（4グループなら4つの集落）。いずれも50世帯程度の規模で、当日にその集落から5名ほど（どちらかと言えば女性）、会場に来ていただくのが条件。

②午前いっぱいグループ別に聴取をし、午後、その結果を模造紙に整理して発表する。

③発表結果を講師が講評するとともに、聴取のあり方全体について、講師を中心に議論する。

[当日の進行]

①聴取開始前に、15分ほど時間を取り、住民を除いた受講生だけで聴取の心得をおさらいする。

②聴取を主導するとともにマップ上に記入する1人を互選で決める。受講生がそれぞれ勝手に質問しては収拾がつかなくなるので、やはり聴取を主導的にすすめる1人を決めておいたほう

がいい。その他の受講生は、主導者の聴取の合間に上手に質問するタイミングを見つける。

③おさらいが終わったら、それぞれのグループに住民に加わってもらう。どのグループにどの集落の人が入るかを決めておく。

④受講生と住民がそれぞれ自己紹介をしてから、聴取を開始する。

⑤聴取の時間は午前中一杯だが、1時間経過した頃に10分ほど作戦タイムを取る。そこで各グループの聴取の実情を報告してもらい、講師が、残りの時間をどう使うかのアドバイスをする。

⑥午後は、聴取した結果をグループごとに模造紙にまとめる。

⑦模造紙を会場の前面に貼り出す。受講生は全員、自分の椅子だけ持って、前の方に集合する。

⑧グループごとに、互選で選ばれた者が説明する。そのときマップも脇に貼り出す。

⑨発表のたびに、講師が講評。

⑩初めて聴取をした感想や反省点、収穫などを出し合う。その後講師がまとめる。

[主催者の用意するもの]

①当日聴取する集落の拡大住宅地図。グループごとに1枚。

②太い色マジックをグループごとに。数色の丸いシールも。

③模造紙（グループの数）

<宿題実習> 支え合いマップを各自でつくってみよう

受講生各自で、マップづくりの対象集落をさがし、決められた期限までに、住民に聴取したうえで、その結果を「インストラクター用支え合いマップ整理ノート」にまとめる。

①受講生が各自1人で取り組んでもいいし、2、3名の受講仲間と一緒に作ってもいい。

②巨大マップは各自、職場や主催者の協力で確保する。

③当然のことながら、集落の規模は50世帯程度で、その住民5名ほどが参加してくれること。

④作成したものは、決められた期限までに主催者へ提出する。主催者はまとめて講師へ送付する。

⑤講師はそれぞれの作品を点検し、あらかじめ課題等を抽出しておく。

[主催者の用意するもの]

①各受講生と協議して、巨大マップを用意。

②「インストラクター用支え合いマップ整理ノート」を受講生の数だけ印刷し、配布（本研究所からデータを送付）。

●第5回目● □月□日 午前10時～午後4時

支え合いマップづくりの総まとめ

宿題実習の成果を発表し合いながら、これまで学んだことを確認し、今後の課題も確認する。

- ①各自が宿題として作成してきたマップづくりの結果を発表するとともに、その講評。
- ②あらためてマップ作りのあり方を振り返り、今後に生かすようにする。
- ③これから、マップづくりをどのように生かしていくかを発表し合う。講師がこれに助言する。

[当日の進行]

- ①受講生が1人ずつ、マップの現物と「整理ノート」をもとに、作成経過と課題、および解決方策について発表する。時間の関係で、発表者を数名に限定する場合もある。
- ②発表結果をもとに、そのたびに講師と受講生全体で議論をする。
- ③すべての発表が終わった後、あらためてマップ作りのあり方について議論をする。
- ④各自、これからマップ作りをどのように生かしていくのかを発表し合う。

[主催者の用意するもの]

- ①各受講生の作成した「インストラクター用支え合いマップ整理ノート」を参加者分印刷。当日までにあらかじめ印刷しておく。
- ②巨大マップを掲出するホワイトボードを、2、3台、用意する。